

日本学生支援機構
 学生支援GP・学生支援推進プログラム
 平成21年度意見交換会

「オフ」と「オン」の調和による学生支援

—高機能発達障害傾向を持つ学生への支援システムを中核にして—

2010年3月10日(水)
 富山大学 学生支援センター
 トータルコミュニケーション支援室
 [アクセシビリティ・コミュニケーション支援室]
 [トータルコミュニケーション支援部門]
 tcsi@ctg.u-toyama.ac.jp

社会的なコミュニケーションの困難さを抱える学生

- 友人関係を求めず、サークル活動やアルバイトからも退却し、なるべくなら一人で楽しむことができる活動を好む。
- ゼミや授業でのディスカッションでは、追求されたり反論されたりすると気分が落ち込み、立ち直るのに時間がかかる。
- 実習や実験の場で周囲との協調性に欠く。
- 教員との適度の距離を保つことができず、卒論の取組みがままならない。
- 就職活動における面接で黙りこんだり、意欲をうまく伝えたりすることができない。

→発達障害学生の人間像と重なる。
 →「高機能発達不均等」学生として概念化

高機能発達不均等(HFDI)学生の特徴 (HFDI: High-Function Developmental Imbalance)

- 1) 知的発達の遅れを伴わない
- 2) 他人との社会的関係の形成が困難
- 3) 状況や相手の気持ちを汲むことが苦手
- 4) 興味や関心が特定のものに限られる
- 5) 被害感・怒りを持ち続けがち
- 6) 特定の卓越した能力を持っている

→彼らの能力を大学と社会の財産と捉える。

3

富山大学に在籍する障害学生(把握人数)

2010年1月現在

	把握している学生数	支援を受けている学生数
視覚障害	2	2
聴覚障害	2	2
肢体不自由	0	0
病弱(内部疾患等)	0	0
トータルコミュニケーション支援室での発達障害学生支援数: 30(7)人		
発達障害(ASD) ()は診断を受けている学生数	19(5)	18(5)
発達障害(ASD・ADHD複合) ()は診断を受けている学生数	5(2) *ASDの診断	5(2)
発達障害(ADHD) ()は診断を受けている学生数	8(0)	8(0)
発達障害(LD)	0	0
合計	36(7)	35(7)

ASD: 自閉症スペクトラム
ADHD: 注意欠陥・多動性障害
LD: 学習障害

4



「オフ」と「オン」の調和による学生支援

- 対面(オフライン)でのサポートに加えて、ネット(オンライン)上でのサポート(富山大学PSNS:Psycho-Social Networking Service)を提供します。
- キャンパスライフでのより良いコミュニケーションの場を提供し、複数のアクセスチャンネルを保證します。
- 発達障害学生の特性を尊重したサポートを行います。

トータルコミュニケーション支援室(オフライン)



富山大学PSNSログイン画面(オンライン)

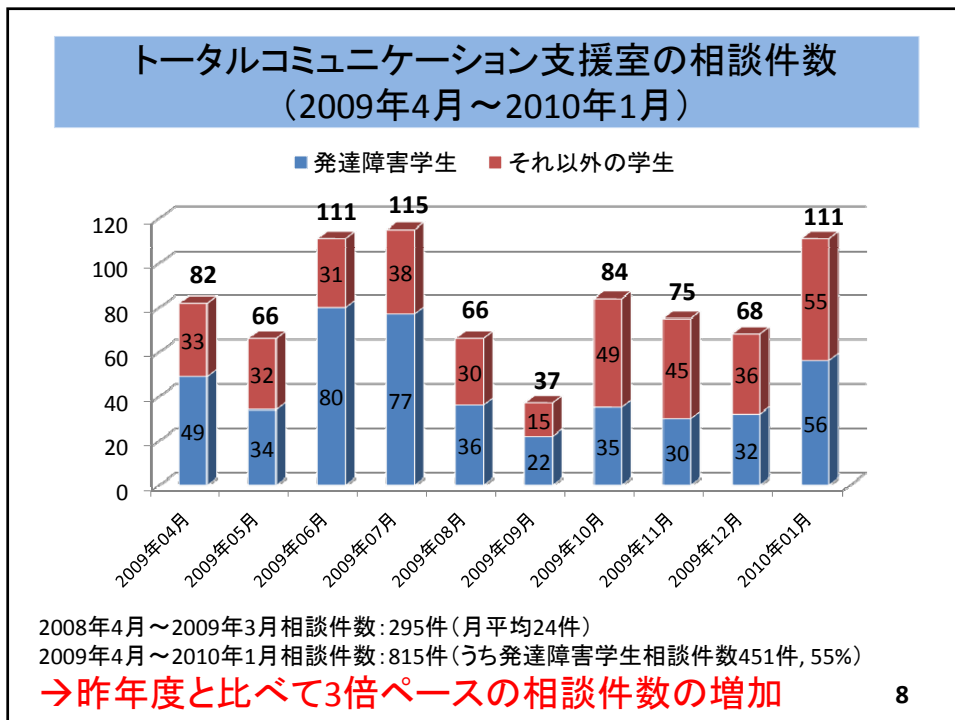
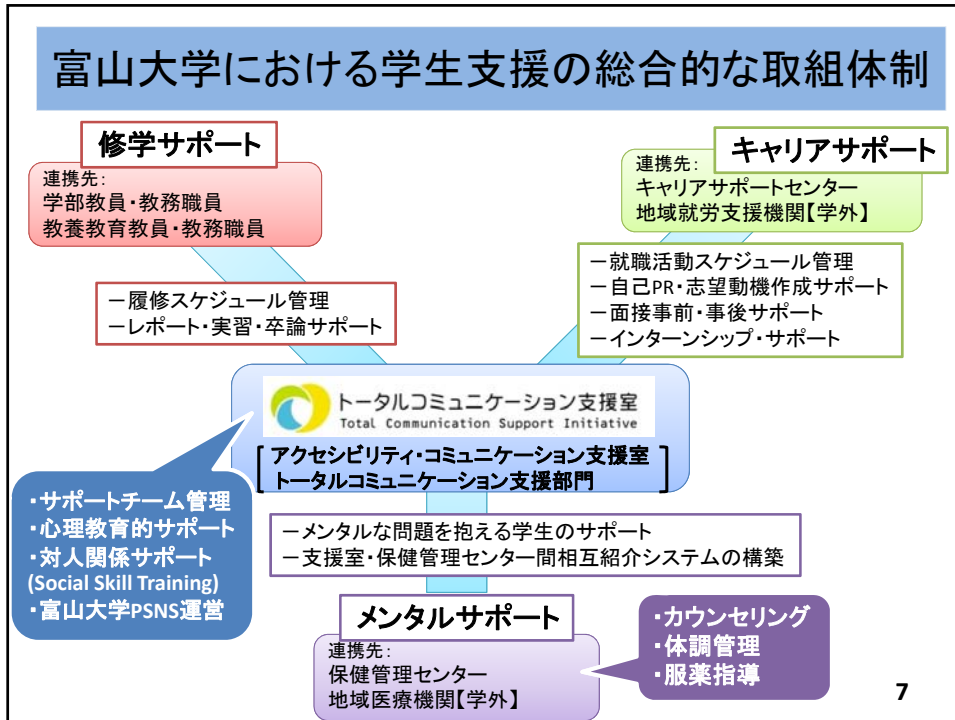


5

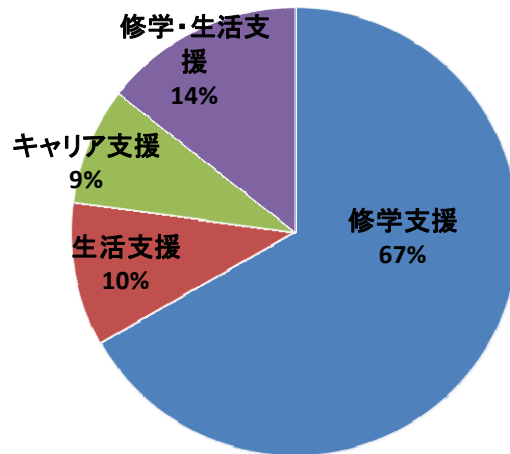
トータルコミュニケーションサポートプロジェクトの特徴

- 1) 発達障害の診断を持つ、持たないにかかわらず、全てのコミュニケーションに関わる困りごとを支援の出発点とする。困難を抱えた学生や学生をサポートする教職員、保護者がサポートシステムに容易にアクセスできるための複数のチャンネルを用意する。
- 2) 学生をサポートしようとする教職員や家族へのサポート(メタサポート)を行う。
- 3) 大学在学中の学生のみならず、大学へ進学を希望する高校生を対象とした高大連携や、大学卒業後の社会参加のためのキャリアサポートを含むシームレスなサポートを視野に入れて活動する。

6

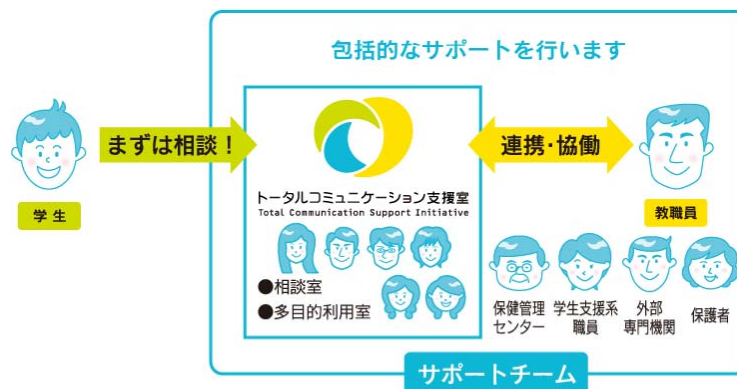


トータルコミュニケーション支援室での
発達障害学生相談種別割合
(2009年4月～2010年1月)



9

サポートチームの形成



10

チームサポート:コミットメントを創造するための場づくり

- 支援は学生が困っていることを出発点とするが、双方が支援の目的を見失わないよう対話を重ねていく。
- サポートチーム内の支援者が、それぞれのリソースを引き出すような関係性を常に保ち続けるようお互いに努力する。
- それぞれの立場の人が、自分は何をすべきかという課題にコミットメントするようなチーム支援を実践する。
- 支援者は、学生とつながり続けるために複数のチャンネルを準備し、つながりの質が変わっても柔軟に対応していく姿勢を持つ。

11

支援をスタートさせる上での基盤としての ナラティブ・アプローチ

【一般医療におけるNBMの特徴 (Greenhalgh,2001)を参考】

- a. 「特性」と「特性に対する学生の対処行動」を、学生の人生と生活世界の中で展開する「物語り」とみなす。
- b. 学生を物語の語り手として、また、物語りににおける主体として尊重する。
- c. 自身の特性をどのように定義し、それにどう対応していくかについての学生自身の役割を最大限に尊重する。

12

ナラティブ・アセスメント

1. 対話の成立

- 対話を促進するような聴き方、質問の仕方を工夫することによって、二者間でのやりとりが促進され、「新たな物語りの構築」が行われる。
- 学生の物語りをまるごと尊重しながら話を聞くことで、学生の主観的体験の全体を知ることができる。

2. セルフ・アセスメント

- 学生自身が支援者と対話することによって、自身に起きた問題を物語的に対象化することができる。
- 物語的に対象化された出来事を振り返ることによって、自分自身の基盤となる特性や傾向に気づき、自己理解が深まる。

3. アセスメントから支援へ

- 学生と支援者との対話が循環し、アセスメントが丁寧に行われると同時に、対話そのものが支援として機能する。つまり、コミュニケーション支援として位置づけられる。

13

合理的配慮(Reasonable accommodation)

- 「合理的配慮」とは、障害のある人が他の者との平等を基礎としてすべての人権及び基本的自由を享有し又は行使することを確保するための必要かつ適切な変更及び調整であって、特定の場合(particular case)に必要とされるものであり、かつ、不釣り合いな又は過重な負担を課さないものをいう。

[※「障害のある人の権利に関する条約(第2条)」川島聡＝長瀬修

仮訳(2008年5月30日付)より引用]

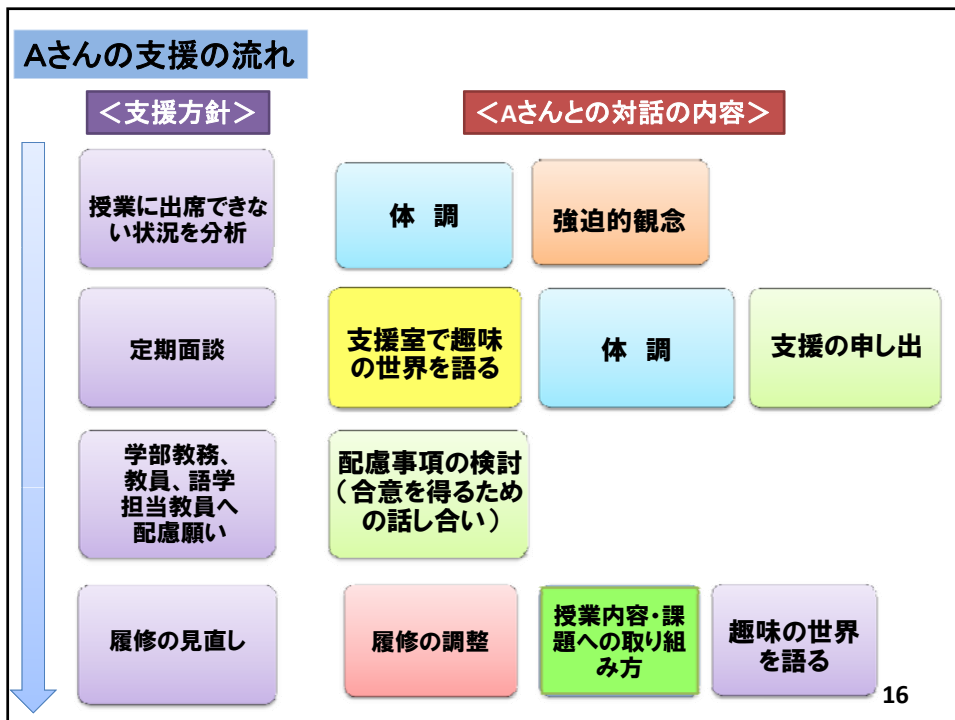
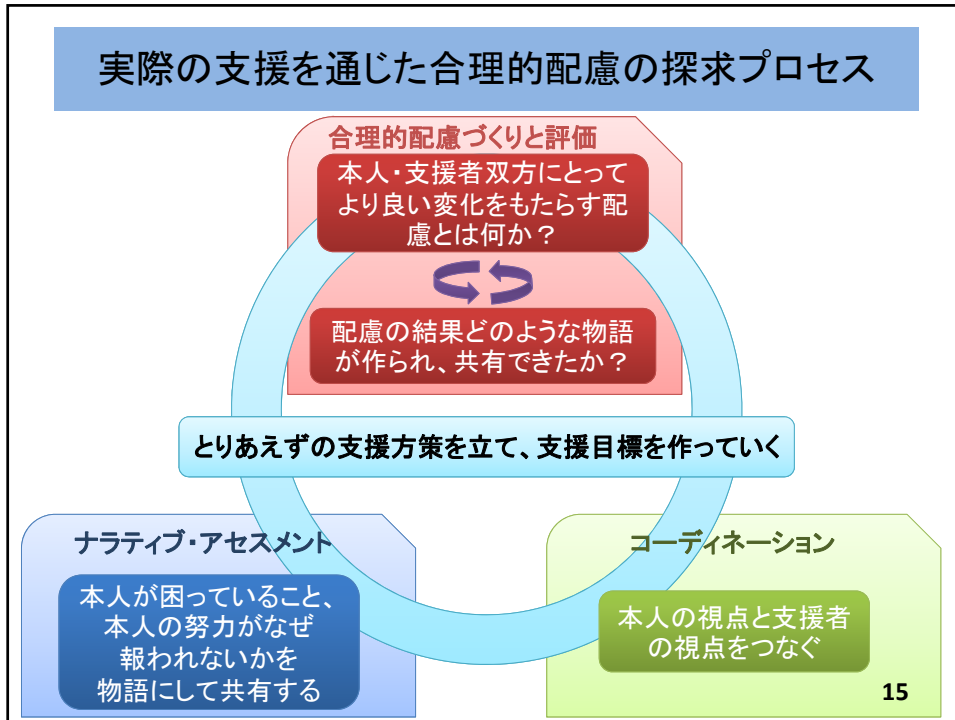
□ 実際の支援における合理的配慮の探求

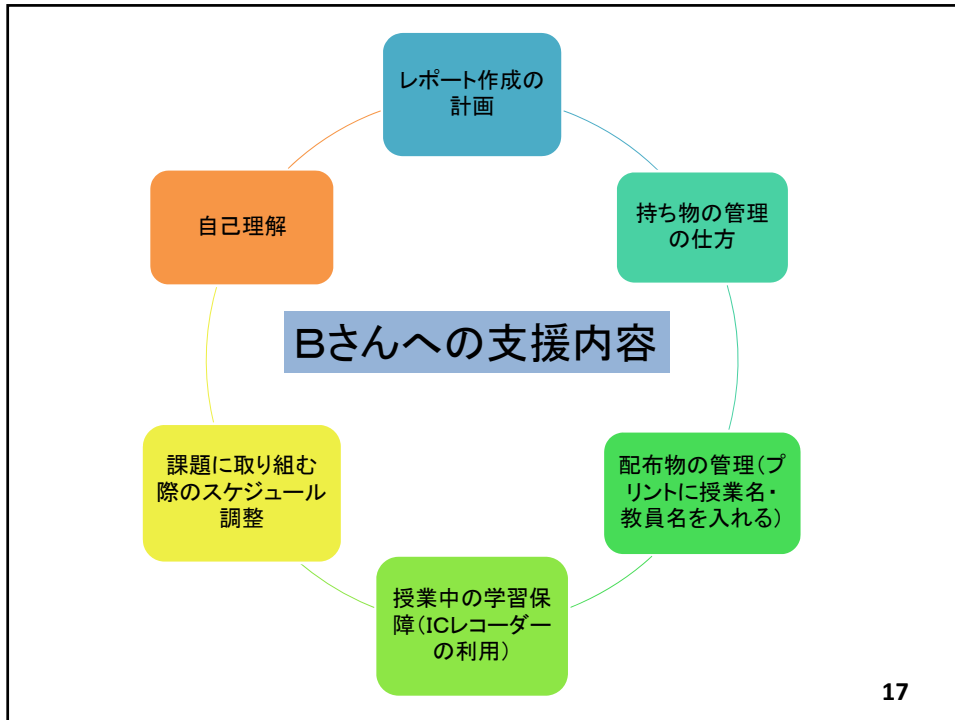
- ・発達障害は困難さに個人差が大きく、必要な配慮も異なり、定型化できない。
- ・状況によって必要な配慮が異なるため、本人、支援者、本人とかかわる人達との間での合意形成が不可欠である。



本人を含めたサポートチームを作り、状況に応じて本人と支援者、関係者が納得できる配慮をその都度探求する。

14





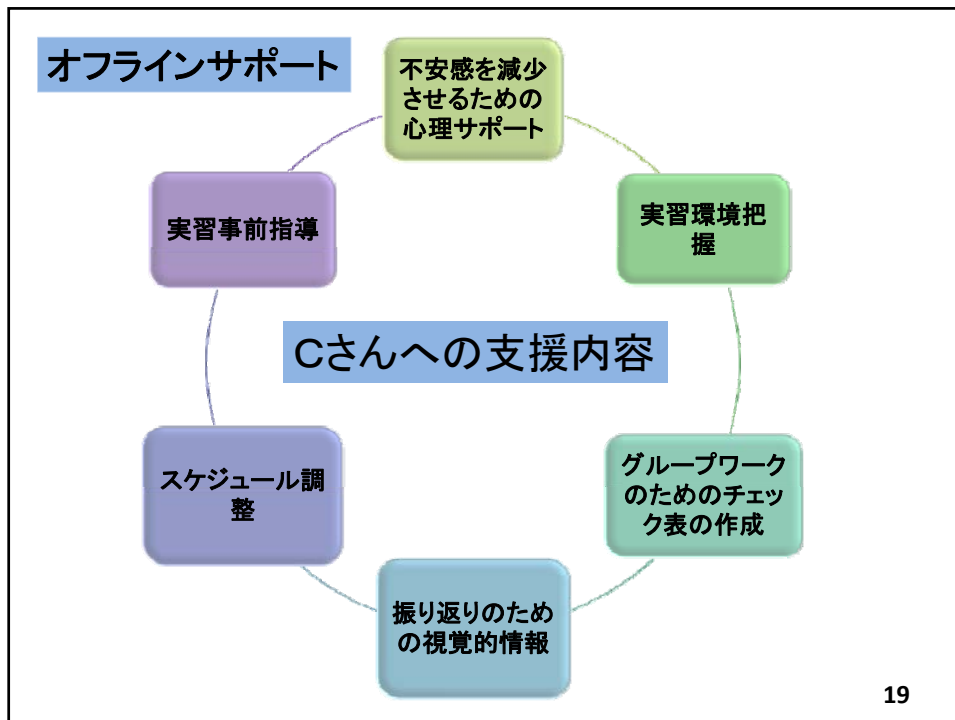
17

富山大学PSNSマイホーム画面

富山大学PSNSの主な機能

- ▶ **マイホーム**
自分のページ(プロフィール情報付)を持つことができます。写真(もしくはイラスト)を編集し、掲載することができます。
- ▶ **マイフレンド**
PSNS 上の友人を登録しておくことができます。マイフレンドの日記更新情報を確認でき、マイフレンド限定公開の日記を開覧できます。
- ▶ **日記**
日記(投稿日時情報付きのメモ)を書いて公開できます。日記は公開対象を限定することができます。(公開しない、マイフレンドまで公開)
他の富山大学 PSNS ユーザーの日記にコメントを投稿したり、自分の日記に投稿されたコメントに返事を書いたりできます。
- ▶ **コミュニティ(掲示板)**
さまざまなコミュニティに参加できます。掲示板での意見のやりとりや、イベント設定・参加ができます。
- ▶ **レビュー**
本、映画、音楽などのレビューを投稿したり、他の人が投稿したレビューを開覧したりできます。
- ▶ **メッセージ送信**
他の富山大学 PSNS ユーザーに、直接メッセージを送ることができます。このメッセージ内容は受信者以外には公開されません。個人相談に利用できます。
- ▶ **あしあと**
自分のページに訪れた、他ユーザーの履歴を確認できます。
- ▶ **学外アクセス/ケータイ対応**
学外ネット環境・携帯電話からの閲覧や書き込みが可能です。
- ▶ **e-learning コンテンツへのアクセス**
健康増進やコミュニケーションスキル等に関する自己学習ができます。

18



トータルコミュニケーションサポートプロジェクトの成果

□ 学生本人にとっての成果

高機能発達不均等 (HFDI) 学生が抱える「生きにくさ」に対して、キャンパスライフを中心として、入学直前、卒業直後までのシームレスかつトータルなサポートが受けられる体制が整った。

□ 教職員を含む大学にとっての成果

個別のコンサルテーションやサポートチームによる協働を通じて、学生支援に関する知識・ノウハウを学内資産として蓄積する場が形成され、次の支援に活かすことができている。

□ 社会にとっての成果

- ✓ 地域に開かれた支援を行うことで、高校生や卒業生のサポートも視野に入れた地域協働ネットワークを構築しつつある。
- ✓ 日本学生支援機構による障害学生修学支援ネットワーク事業に拠点校として参加し、全国の大学・短大・高専からの相談に応じている。